

防犯環境設計デザイン CPTED を適用した 街づくりに向けた取り組み

申 珠莉*

01 研究の背景と目的

安全・安心は良好で持続可能なコミュニティに不可欠な要素である。そのようなコミュニティはデザインに優れ、居住・就労に魅力的な環境であるだけでなく、犯罪、犯罪不安がなくQOLが高い。しかし長きに渡りデザイナーは犯罪問題に目を向けずにきた。本研究ノートはデザインプロセスの一部として防犯に焦点を当て、人の活動を促進するデザインによる防犯手法を提示することで、より安心安全な都市生活環境づくりに貢献することを目的とし、防犯まちづくりの方向性を考察する。

防犯環境設計とは、犯罪が発生する物的な環境や状況に着目した犯罪予防の手法である。物的な環境を適切に整備・管理し、効果的に利用すれば、犯罪の機会を減らすだけでなく、犯罪不安を軽くし、人や社会の生活の質を向上させることができるという考え方に基づいている。これまで先行研究として、環境デザインによる防犯の考え方は、オスカー・ニューマンによる「まもりやすい空間9」、レイ・ジェフリーによるCPTED セブテッド（Crime Prevention through Environmental Design）をはじめ、いくつかの理論として構築されてきた¹⁾。

韓国・ソウルでも各研究機関によって、地区レベルでの防犯に関する研究成果が論文等の形で出されている。しかし、これまでに実際に市街地整備に携わる自治体や民間事業者がそうした研究成果を目にすることはほとんどなく、防犯性の高い市街地が形成されるに至っていない。こうした背景に鑑みて、本研究では防犯性の高いまちづくりを実現するための手法の提示を試みる。

本研究の対象地であるソウル市カンアク区ヘンウン洞は、刑法犯認知件数が市内自治体でワーストを記録し、そこからの脱却が急務となっていることからソウル市は、ヘンウン洞を犯罪予防デザインプロジェクトモデル地区とした。こうした背景で進められた、デザインを活用し

受理日2014年11月26日

*教養学部芸術学科デザイン学課程教授

た防犯環境設計について報告する。なお本研究は、KimhyunsunDesign との共同研究である。

02 調査・分析

02-1 現況分析（ソウル市カンアク区ヘンウン洞）

ソウル市の南，南部循環道路沿いの商業地区を中心に中・低所得層の住民で構成された地区である。家賃が比較的安いことからワンルームが密集し，一人暮らしの大学生やサラリーマンなどが多く住んでいる。特にソウル市において女性の比率が2 番目に高い地域であり，特に20～30代の独身女性の割合が半分を占めている。

- ・世帯数：15,436
- ・人口：30,026名（男14,905女15,121）
- ・面積：0.69km²
- ・住宅：6,308棟（戸建1,540・低層アパート1,197／高層アパート3,571）
- ・その他：公共機関2，教育機関8，金融機関8，福祉施設19

デザイン提案にあたっては，当該地域の犯罪パターン分析や犯罪リスク影響評価等を通じて，地域の犯罪情勢への影響を考慮しながらデザイン提案に当たらなければならない。現況分析から，性犯罪・侵入窃盗・非行青少年喫煙の3つの犯罪パターン，そして空間の問題として，照明の不足・隙間空間・死角となる空地が浮かび上がった。



図1 ソウル市カンアク区ヘンウン洞



図2 ソウル市カンアク区ヘンウン洞の現況

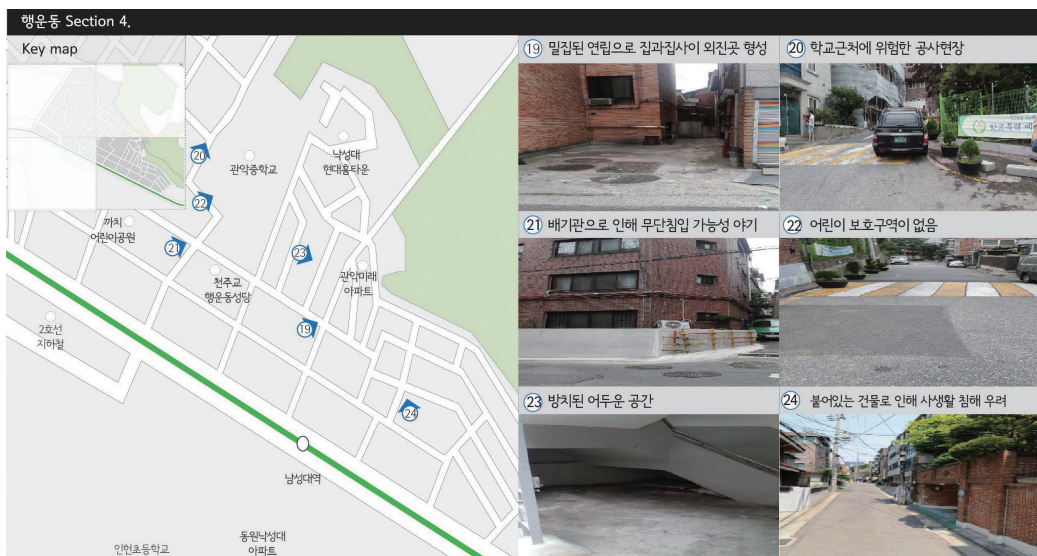


図3 現況分析・昼
 ①9建物隙間空間 ②0学校近くの工事現場 ②1設備などから無断侵入促がす
 ②2子供保護区域なし ②3放置された空間 ②4密集する建物



図 4 現況分析・夜

- ①プライバシー保護なし ②低すぎる塀 ③老朽化した階段
④密集により分かりづらい ⑤違法駐車 ⑥暗い路地

02-2デザイン戦略

「監視性の確保」として、見通しを確保することで住民の目が自然に届く環境をつくること。
「領域性の強化」として、住宅や住んでいる地域の維持管理状態を向上させ、侵入犯が入ってこない環境をつくること。

「接近の制御」として、敷地をフェンスで囲ったりセンサー設置などで侵入経路を制御すること。

「被害対象の強化」として、建物の出入り口の施錠、窓の防犯ガラスなどで侵入を防ぐこと。

02-3 CPTED 基本モジュールの提案

緊急時使用する CPTED 基本モジュールとは、監視者確保のための非常ベル・非常灯・視野確保のための反射鏡および非常ボタンから構成されている。非常ボタンを押すと管制センターにつながり、直に助けを要請できる。また、池面に SOS の文字が照らされ危機状況であることを音と共に周囲に知らせるようになっている。なお主な使用対象者であることが予想される女性や子供の身体的特徴を考慮し設計している。

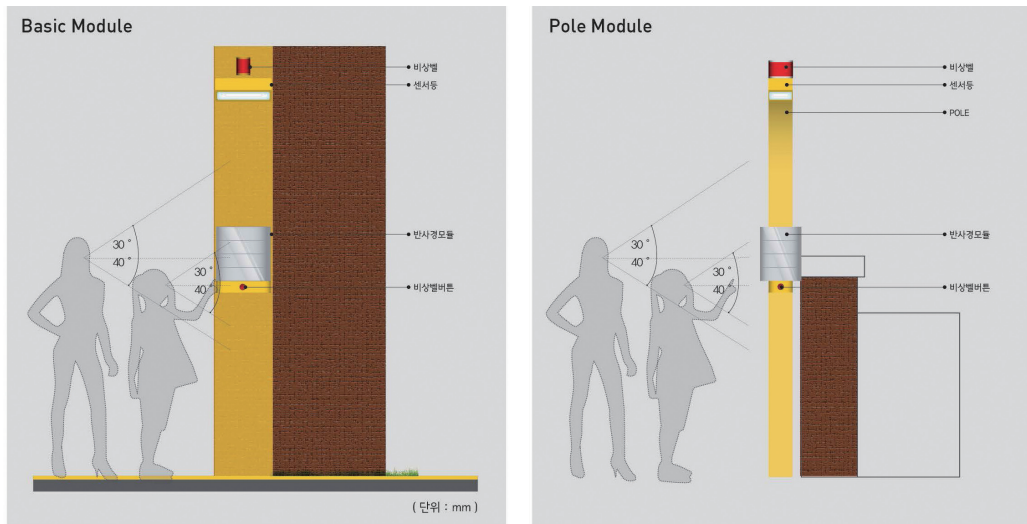


図5 CPTED 基本モジュールのプロトタイプ

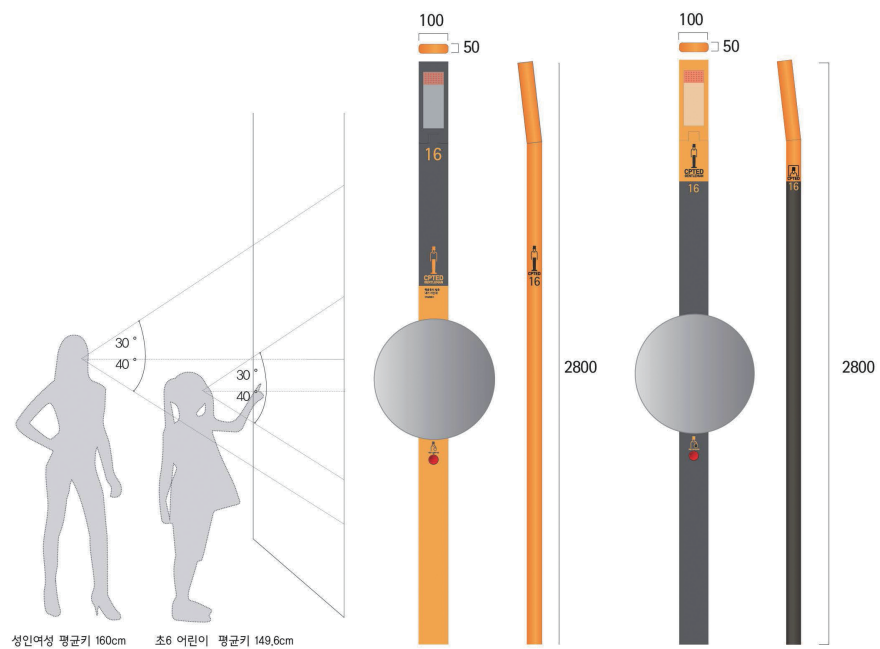


図6 CPTED 基本モジュールデザイン案



図7 CPTED 基本モジュールの設置シミュレーション



図8 CPTED 基本モジュールデザイン設置案

おわりに

以上の報告通り，デザインの活用による防犯まちづくりが展開されつつある。また，ハードだけでなくソフトの住民活動にも結びつけていくことがひつようであろう。生活環境の「量」を求める時代が終わり，今後の市街地更新にあたっては「質」の高い街づくりが求められる。市街地整備を行う際に防犯に配慮できるよう，自治体や事業者に知識を普及することが大きな課題である。事例として挙げた地区をモデルにデザインが各地で活用され，安全・安心に暮らせる都市生活環境の実現に寄与することを祈念する。

参考文献

- 1) 樋野公宏・石井儀光他：防犯まちづくりデザインガイド～計画・設計からマネジメントまで，建築研究資料 134 号，独立行政法人建築研究所，2011 年
<http://www.kenken.go.jp/japanese/contents/publications/data/134/>

